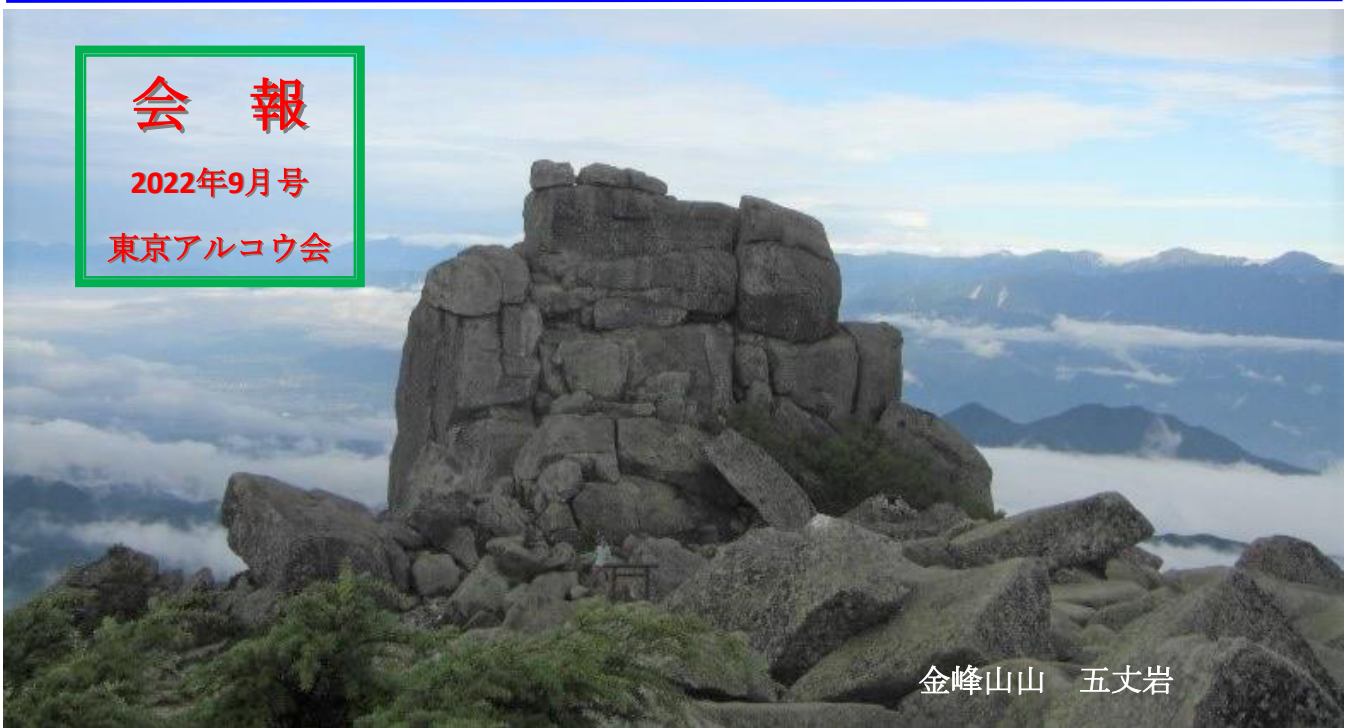


会 報

2022年9月号

東京アルコウ会



金峰山山 五丈岩

◆ 9月集会

期日：9月25日(日)PM2:30～5:00

於：神楽坂／赤城生涯学習館

議題：会務、山行計画、山行報告、その他

◆ 9月委員会

期日：9月25日(日)PM1:00～2:15

於：同上

議題：会務、100周年関連、山行計画、
山行報告、その他

◆ 10月集会、委員会：10月30日(日)開催予定

<9月、10月の山行計画>

9月10日(土) 横須賀散策 L久住

【集合】品川駅京浜急行ホーム前方3両目 8:20

【行程】品川駅(8:27発)京急本線快特・三崎口行
⇒(9:27着)京急久里浜駅⇒ペリー記念館⇒くりは
ま花の国⇒京急久里浜駅⇒横須賀中央駅⇒三笠棧

橋(フェリー)⇒猿島⇒三笠棧橋⇒どぶ板商店街

9月18日(日) 奈良倉山・鶴寝山 L後藤

【集合】JR中央本線上野原駅 8:30

【行程】上野原駅(8:50発バス)⇒鶴峠バス停⇒奈良
倉山⇒松姫峠バス停⇒鶴根山⇒山沢入りのヌタ
→栃の巨⇒小菅の湯(コースタイム4時間45分)**9月29日(木) 青木ヶ原・樹海** L久住

【集合】バスタ新宿4階待合室 7:00

【行程】バスタ新宿(7:15発)高速バス⇒河口湖駅
(9:35発)ブルーライン⇒鳴沢氷穴⇒富岳氷穴⇒
野鳥の水飲み場⇒西湖こうもり穴⇒河口湖駅**10月6日(木)～8日(土) 北アルプス潤沢** L久住**10月16日(日) つくば・宝篋山** L薄**10月23日(日) 奥多摩・大岳山(100周年記念山
行)** L廣瀬

山行報告 山行回数 No. 5773

○ 2022. 8. 2(火) - 3(水) 晴れ

つばくろだけ

燕岳(2763m)

=係 高倉=

参加者：L高倉、宮澤

(前日8月1日)穂高駅前のバス乗り場で宮澤
さんと待ち合わせ。13:50中房温泉(1462m)
着。高度順応するため14時半ごろから翌日登る合戦尾根を第二ベンチ
まで往復、コースタイ
ムもかからず、登山道
の様子も見られ一安
心。夕食前に露天風呂
に入り大満足の前夜と
なりました。(8月2日)今回のコー
スは人気コースだけ
あって平日でも登山者
で混みあい、二人で

燕岳に今年も来ました!

ゆっくり合戦尾根を登る。合戦小屋で休息し（お約束の西瓜を食し）、合戦沢ノ頭から森林限界を越えても幸い強風はなく、高山の華麗な花々を愛でながら燕山荘に到着。燕山荘でカレーを食べた後、燕岳へ。山頂で出会った人たちの中には日帰り登山者も少なからずいましたが、私と宮澤さんは急ぐ必要もなく、北アルプスの雄大な山々を心ゆくまで堪能することができました。



宮澤さんと山頂にて

(8月3日) この日は当初の縦走計画を変え、合戦尾根を下山。宮澤さんとは今年4月にも二人で丹沢山に行きましたが(山小屋泊)、今回も二人でお喋りしながらの大変楽しい山行となりました。私はちょうど一年前にも



ブロッケン現象

燕岳に来ましたが、これからもっと北アルプスの山々を楽しみたいと思っています。

(記 高倉)

<コースタイム>

【一日目】6:05中房温泉登山口—9:50合戦小屋—11:25燕山荘 13:00燕山荘—13:30燕岳—14:30燕山荘

【二日目】6:20燕山荘—7:00合戦小屋—9:25中房温泉登山口

山行報告 山行回数 No. 5774

○ 2022. 8. 6(土) 曇り

西沢溪谷(最高地点標高 1,389m

西沢溪谷入口 1,136m)

=係 宍戸=

参加者：L宍戸、久住、久住(三)、武田、薄、田村(め)、小國、白石、成田 計9名

行程：

[往路]

JR中央本線「塩山駅」9:00集合、9:05発バス⇒10:05西沢溪谷入口バス停到着→西沢溪谷入口10:20着、準備体操後10:40出発→11:26 三重の滝 →11:50 母胎淵→(昼食休憩 35分) →12:25発 →13:00 迂回路→13:36 大久保沢→14:10 ネットリ大橋→14:23 西沢溪谷入口バス停到着

[帰路]

14:40 西沢溪谷入口バス停 発→15:40 塩山駅到着

歩行時間：合計4時間20分(休憩時間 30分)

距離： 8.4km

累積： 登り 691m 下り 698m

交通費： 新宿 ⇄ 塩山 乗車券 片道1,980円

塩山 ⇄ 西沢溪谷入口 片道 1,050円

合計 6,060円

報告：

酷暑がひと段落したようなどんよりした曇り、山からたくさんの霧(雲の素)が湧き出している朝でした。

電車組は、計画通り塩山駅で集合、溪谷入口バス停で車組と合流しました。

バス停から2kmほどの溪谷入口で準備体操を行い、出発しました。

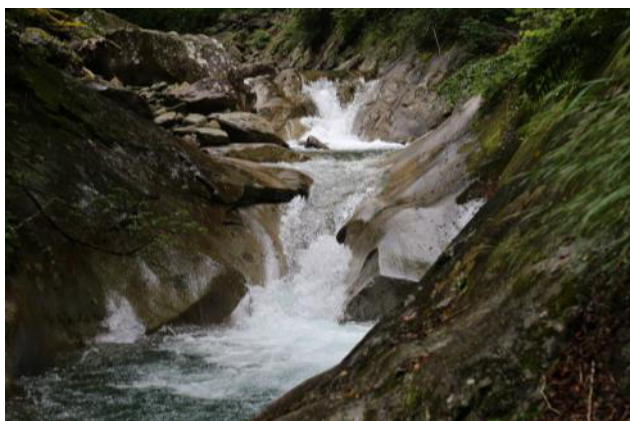
一般観光客も訪ねてくる観光地ですが、往路はしっかりした靴でないと難しい石道や、先週の大雨の影響でしょうか、腐葉土が水を含み靴が沈んでしまうような泥道もたくさんありました。ただ、たっぷりした水量で溪谷、溪流の素晴らしい景色とマイナスイオンの恩恵に浸ることができました。帰りのバス乗車時刻を考えて、「計画書」どおりの時間進行を心がけたため、昼食時間は短くなりました。

2～3年前の大雨の影響で、一番見たい「七ツ釜五段の滝」の手前で迂回路となっていました。事前に周知していましたが、実際行ってみると金属梯子や、急あつらえの登山路で、息せき切って登りました。ここが一番の難所でした。

登り切ってしまうと、帰路はトロッコ跡の平坦な道で歩き易かったです。バス時刻を意識しながらスピードアップでサクサクと歩きました。

予定通り、バスにも間に合い、車組も帰路に着き、無事に終了しました。

暑い時の渓谷の涼しさを十分に満喫できた山行でした。 (記 穴戸)



山行報告 山行回数 No. 5775

○ 2022. 8. 14(日) 曇り

箱根旧街道

＝係 久住＝

参加者：L久住(謙)、吉田、薄、成田、田村(め)

[集合] 箱根湯本駅バス乗り場(箱根町港行き) 9時30分

[アクセス]

新宿駅(7:30発)小田急線⇒(8:57着)小田原駅

(9:04発)箱根登山電車⇒(9:19着)箱根湯本駅

[行 程] 箱根湯本駅(9:35発)⇒(10:09着)

箱根関所跡(10:30発)→(10:40着)箱根恩賜公園

(11:35発)→(12:00着)旧街道入口→(13:00着)

甘酒茶屋(13:55発)→(14:15着)猿すべり坂バス

停(14:42発)⇒(15:00着)箱根湯本駅

[コースタイム] 2時間

[交通費]

[往] 新宿 891円 小田原 320円 箱根

湯本 980円 箱根関所跡

[復] 猿すべり坂バス停 590円 箱根湯本

320円 小田原 891円 新宿

[報告]

前日からの雨が上がり終日曇り模様が続いた。箱根関所跡は参加者何れも過去に訪れたことがあったのでパスした。隣接する箱根恩賜公園を散策した。静謐な遊歩道、植木類が整備された広大な庭園であった。芦ノ湖は霧に包まれ、絶景のはずの富士山も全く見えなかった。途中の2百階段の下りは滑り易くとても危険で一



同恐々下った。

石畳が続く箱根旧街道は、江戸時代には箱根越えの道で通称「箱根八里」で知られる難所で

あったが石畳を敷き整備されたとのこと。江戸時代に植えられたであろう巨木の杉並木に挟まれた石畳の旧街道を江戸時代に思いを馳せながら進んだ。此処も石畳が前日からの雨に濡れてとても歩き難かった。

藁ぶき屋根の甘酒茶屋に13時に到着、屋外のテーブルで昼食を摂った。甘酒茶屋はとても趣き深い建物で多くの観光客が昼食を楽しんでいた。今回の山行に参加した田村さん手作りの鰻入りだし巻き卵、スイカの皮の漬物が絶品であった。



昼食を済ませゴールの畑宿に向かった。筆者は平らな歩道の濡れた敷石に足を滑らせ、転ぶまいと踏ん張ったところ大腿四頭筋の肉離れを起こしてしまった。ハイキングを継続することが厳しかったので、甘酒茶屋の次の「猿すべり坂」バス停より箱根湯本まで全員でバスに乗ることになってしまい、他の参加者には申し訳ないことをした。

箱根は石畳、敷石の道が多く、雨降りの後は滑りやすいので、地元の話では雨の翌日は極力出歩かないとのこと。今回は霧に包まれ幻想的な杉並木の道を歩けたが足元がとても危険な道が続いた。次回は晴天の日を選び、芦ノ湖を見渡し、雄大な富士山の景色を楽しみたい。

(記 久住)

山行報告 山行回数 No. 5776

○ 2022. 8. 20(土) - 21(日)

1日目：曇り後雨、2日目：晴れ後雨
奥秩父・金峰山

＝係 薄＝

参加者：薄(L)、後藤(SL)、谷口(喜)、宍戸、
吉田、白石、武田、三浦(良) 計8名

費用：①交通費 10,000円(新宿駅起点)

②宿泊費 9,000円(1泊2食付き)

行程：

[1日目] 高尾駅8時02分発の電車内で集合、塩山駅9時24分着、予約してあったジャンボタクシーで大弛峠10時40分着。いきなり2365mの高度まで来たので昼食をとりながら体を慣らすことにする。11時30分登山開始、夢の庭園に寄り、雲海に浮かぶ山並みを見てから金峰山方面に向かう。大弛峠と金峰山の標高差は僅か234mしかないが、樹林帯の中アップダウンを繰り返すのでそう楽ではない。途中雨が降り出してきたのでレインスーツを着る。岩がゴロゴロして歩きにくい箇所を通りやると金峰山頂上に到着。すでに16時になっていた。雨の中五丈岩も見えず、小屋に向かって下山する。金峰山小屋16時30分。10人ほどの先客がいた。レインスーツ・ザックカバーなどを干し、着替えをしてからまずはビールで乾杯、その後持参してくれたワイン・日本酒を飲み、そのまま夕食になる。8時30分消灯。

[2日目] 5時からの朝食を済ませ6時15分出発。昨日下ってきた道を頂上に向かって登る。朝方覆っていた霧も晴れ、頂上からは360度の展望で、五丈岩もその堂々たる姿を見せている。五丈岩の前で写真を撮ったりしてしばし休憩をとる。雲がかすれてきて富士山も姿を現す。7時30分下山開始。周りの景色を見ながらの気持ちの良い稜線歩きだが、時々岩稜や鎖場があり慎重に通過する。11時大日岩、11時50分大日小屋、ここで昼食にする。昼食後歩き始めると雨が降り出し、レインスーツを着る。富士見平小屋13時40分。予定よりだいぶ遅くなっているので、帰りに温泉に寄るのはあきらめ、このままのペースで歩くことにする。バス停のある瑞牆山荘に14時30分到着。15時20分発のバスまで時間があるのでザックを整理したりソフトクリームを食べたりして過ごす。韮崎駅で特急券を買って帰路についた。

[後記] 雨が降ったことを差し引いても、思った以上に時間がかかった。コースタイムの約1.5倍の時間で歩いたのではないかな。その

理由は、今回の参加者は全員60代70代であり、若いときに比べそもそも体力が低下していることに加え、①2000mを超える山では空気も薄くなり呼吸が多少苦しくなる。②ザックが日帰りハイキングより重い。③日帰りハイキングではほとんどないような岩場の個所が多かった。——ということであろうか。

結局、大幅な時間増を見越して計画することが今後の課題ではないかと思う。

(記 薄)



随想

山に親しみ山に想う (47)

— 檜原村の本宿(橋橋、口留番所) — (4)

(記 岡本)

本宿は檜原村の行政の中心である。迂闊にも間違っ永く本宿を「ほんじゅく」と読んでいたが、正しくは「もとじゅく」である。本宿は地形上からも興味あるところである。村の周囲

は峻険な山岳で圍繞されているが、本宿回りだけが平坦地で且つ村の出入口を扼する部分に当たっている。

村の中央を東西に走る浅間尾根の入り口に当たるところに橋橋がある。更に詳しく言えば、南秋川と北秋川の合流点から50m程南秋川寄りに架かっている。現在は鉄骨造りの変哲もない橋であるが、江戸期の昔には御普請橋と呼ばれて幕府が架けた権威ある橋であった。その構造は、山梨県大月市の猿橋と同じように兩岸の崖から刎木(はねぎ)を何段も重ねて橋床を受ける造りで、規模は長さ21m、横幅2.4mという見栄えのする立派なものであった。

橋橋の辺りは、断崖の地形を成しており、崖の下は南秋川の急流であるため、渡渉も高巻きもできない厳しい地形である。このため檜原村に逃げ込みたい不良人、隠密、駆け落ちなどは誰であろうとも橋橋を渡らなければならなかった。橋橋は警備の機能面だけでなく、物資輸送面でも重要な働きをした。南谷方面(南秋川流域)からは、桐原(ゆずりはら)の各村や甲州郡内などから、また浅間峠からは、小河内、小菅、丹波山などから人や馬によって物資が運び出されるのに橋が利用された。利用状況の一端を示すものとしては、寛政元年(1789)に出荷した薪炭が年間13万5163俵に及んだという。

幕府直轄の御普請橋、橋橋の造築、修理などは村の協力のもと幕府が行った。材料の木材は村内にある五箇所の御林山(幕府の直轄の山で三頭山、熊倉山、白岩(しらや)山、月夜見山、毛手山)(注)から伐採して利用し、当然だが人足として村の住民が徴発された。橋橋は敵の攻撃を受けた際には取り外して遮断ができるようになっていたと言われる。

江戸幕府は警備のために関所に次ぐランクの番所を橋橋の東側傍に設けた。江戸時代初期の元和9年(1623)に、徳川家光が第三代将軍に就いて父秀忠と共に上洛することになった。江戸を留守にしている間に異変が起こってはならないと懸念して、江戸四方の警備を固める措置をとった。その際、甲斐方面からの懸念に対応して本宿に番所が設置され、その機能が開始した。番所として整った建物や木戸が完備したのは、8年後の寛永8年(1631)である。それは、この年の5月、駿河大納言の徳川忠長が甲斐に閉居を

命じられたことと関係している。忠長は家光の弟、幼名は国松と言ひ、母親江は長男竹千代(家光の幼名)より国松を溺愛し、次期将軍は国松かと噂が立つほどだった。忠長は駿河の城主としての狂気の行動から甲斐に閉居されたが、忠長の家臣らの動きが危険になってきたので、甲州から江戸へ通じる道の取り締まりが強化された。忠長は寛永9年に父の二代将軍秀忠が亡くなると、間もなく切腹死罪となった。

江戸から甲州に通じる道は幾つかあるが、五日市から村の浅間尾根(峠)を通り小河内から甲州に通じる道は平安時代から開かれていて、江戸時代には甲州中道と呼ばれる重要交通路になっていたことや、村に出入りするにはすべて峠越でないといけないが、この橋橋のところだけが平地であったことが番所の設置場所として考慮されたと考えられる。橋橋の所の地形が人間の喉元に当たるような大切な所なので「口留(くちどめ)の番所」と呼ばれた。当時、幕府は全国の主要街道に関所20箇所、番所33箇所、合わせて53箇所の監視所を設けた。

口留番所の木戸は道を跨いで東向きに置かれ、番屋は6坪の平屋で刺股(さすまた)、突棒、袖搦(そでがらみ)が置かれ、掟を書いた高札は番屋脇にあった。

寛永8年当時の通行の定めは、忠長の家臣らの動向も絡んで「近くの村の木樵や草刈りや畑の耕作をする者の他は、一切往来を禁止する」という厳しいものであったが、その後世相が落ち着きだすと、旅人の通行が許されるようになった(「通り方御定法」)。口留番所は慶応3年(1867)までの245年間存続した。

村は幕府の天領だったので、村の支配は代官が担っていたが、本宿の上元郷に居住する名主吉野家が代官の指図を受け取り締まりの任を世襲した。吉野家の家柄をみると、承久の乱(1221年、後鳥羽上皇と鎌倉の執権北条義時の抗争)の際に上皇側で戦った吉野重季の孫に当たる現三郎が落人として弘安3年頃(1280)村に落ち着いた名門の家系である。

ところで、村には番所を通らずに通行できる抜け道があったと伝えられている。上元郷の秋川の北側に上日向と呼ぶところがあり、上日向から立山の北を通り雑司原に抜けられる道である。この道を通るものは上日向で名前屋(なめ

や)の屋号の家の了解を得て通行したという。役人との暗黙の了解あったと推測されている。表は大事だが、裏も必要ということだろう。

平成5年に村役場庁舎が落成し、その翌年庁舎の西側の道路際(番所跡のすぐ近く)に当時の木戸を模した門が復元された。

次回は檜原村の炭焼きについて触れる。

(了)

(注)御林山 随想「山に親しみ山に想う(28)「御林山 何故御」」を参照してください。会のホームページの随想欄

(参考資料)

「郷土史檜原村」 檜原村文化財専門委員会
平成8年3月刊

「檜原村紀聞・その風土と人間」 瓜生卓造著
東書選書 昭和52年6月刊 他

